

4月の年度初めから早や2カ月が過ぎましたが、今年度最初のStrumをお届けします。

今年は後援会発足5周年、リサイタル10周年の年になります。ずっと応援を続けて下さる皆様のお陰で、伊都さんと共にここまで歩んで来れたなあ、と感慨ひとしおです。ドカンと特別なことは出来ませんが、皆様に感謝を込めて、記念冊子を発行したいと考えています。「継続は力」ですね。

近況報告

4月末より、短期の滞在でロンドンに來ています。久しぶりのロンドン、そろそろ暖かくなり、花がほころび始めている頃かなとの呑気な予想を見事に裏切って、重くたちこめる雲の下、時折雷が鳴り、豪雨が襲う悪天候、肌を刺す冷え込みに落胆しつつもロンドンに戻ってきたという安堵感があるのは、土地と天気がいかに結びついて体に記憶されるものなのかとあらためて感じます。この報告を書いている5月末現在、ロンドンはようやく頑固な寒さから解放され、いきなりの真夏日、一面澄み渡るような青空に、来るダイヤモンドジュビリー（エリザベス女王在位60年記念）の連休（6月2日より4日間）を待つロンドンはお祭り前のうきうきとした雰囲気包まれています。

小さな曲を集めた聴きやすいCDがあればいいのに！と人に幾度となく言われ、日本での長期滞在を利用して制作した初めてのCD。一般のCDはスタジオ録音され、あとから編集をして作られている、つまりいくらでも後からごまかせる・・・！との甘い認識で気軽にのぞんだ私をあざ笑うかのように、録音、そして編集の作業は難航しました。何しろ私たちクラシックの演奏は、その時のテンション、楽器のコンディション、本当に些細なことで演奏そのものが変わってしまいうため、よっぽどのプロのクラシック録音専門家でなければ、後からちょっとその1小節、その1音だけでもっと出来の良いものに変えるというのは至難の業、というわけで今回の私のCDはほぼ一発どり、つまりLIVEのCDとほとんど変わらない仕上がりとなりました。クラシックの演奏が芸術といわれるゆえん、さまざまな要素が重なりあい、一つの音楽が生み出される、その繊細さに瞠目しつつ、小品ばかりのコンサートを聴きに來たつもりでCDを聴いていただけなら良いなと思っています。

【伊都】

澄音色Ⅱ

二度目の試みとなるJazz Live Houseでのクラシックコンサートが、3月19日横浜関内駅近くの“BarBarBar”で行われました。イギリスのパブ風のライブレストランで、飲んだり食べたりしながら聴くヴァイオリンは、静かなコンサートホールで聴く音とは違い、カジュアルな雰囲気の中、不思議な熱い一体感に包まれます。45分のステージに3回も立った伊都さんはさぞ大変だったと思いますが、夜も更けた最後のピアソラの情熱的な3曲は、まさに「酔いしれた」絶品でした。クラシックというジャンルを超えたかのような、アーティストとしての伊都さんの表現を聴くことができた、素晴らしいコンサートでした。

親睦会「伊都さんとランチ♪」

急きょ企画された親睦会。3月10日、まるで2月に戻ったかのように寒い土曜日、横浜ランドマークタワーの自然食バイキング 餉餉（けけ）で催されました。参加者は会員7名と伊都さん、と少なめでしたが食べてしゃべって、あっという間に楽しい時間が過ぎました。おば様方に囲まれ、伊都さんもこの時ばかりは「知り合いの娘さん」でした。食べ物や世間話には花が咲いたけれど、音楽の話が出たかどうかは・・・記憶にありません。





CD 出来ました！

伊都さん制作の CD 「Ito Kanoh 1st Album」 は、もうお聞きいただけましたか？ 14 曲の小品が収録された初めてのアルバムです。「こんな風に弾けるのはたぶん世界で伊都さんだけ」と思わせる「美しきロスマリン」に始まり、やはり人には真似のできない「チャールダッシュ」、大好きなアンコール曲「ロンドンデリーの歌」、最後は心地よい余韻が残る「タイスの瞑想曲」。

家事や勉強…何かをしながら BGM にするもよし、夜、静かにお酒を飲みながら聴いてもじっくり合う万能 CD？ 心がカサカサした時にも沁み込みますよ。伊都さんのヴァイオリンが身近になった嬉しい一枚。ピアニストはベーリックコンビの近藤紗織さんです。

CD の販売はリサیتالオフィスが代行しています。
お申し込み、お振込みはリサیتالオフィス宛てにお願いします。

収録曲

- F. クライスラー：美しきロスマリン
- A. ドヴォルジャーク：
ロマンティックな小品 I, II, III
- F. クライスラー：ウィーン風小行進曲
- V. モンティ：チャールダッシュ
- J. ガーシュイン：前奏曲 1
- J. フバイ：おいでよカティ
- J. ウィリアムズ：シンドラーのリスト
- W.A. モーツァルト：ロンド
- F. クライスラー：愛の悲しみ
- F. クライスラー：ジブシーの女
- F. クライスラー：ロンドンデリーの歌
- J. マスネ：タイスの瞑想曲

今年度の予定

第 10 回 加納伊都ヴァイオリンリサイタル 2012 年 12 月 21 日（金） 6 時半開場 7 時開演

第 5 回 イギリス館コンサート 「Wiener Wind」 未定（日程が決まり次第、お知らせします）

リサイタル 10 周年、後援会 5 周年を記念して、今までのコンサートの写真や伊都さんの文章で綴った冊子を作ることになりました。8 ページ程度の薄い冊子ですが、ひと区切りの記録としてまとめます。完成しましたら、会員の皆様には郵送いたしますので、楽しみにお待ちください。
また、上記のコンサートでも来場された方々にお配りする予定です。

D	V	D	C	l	a	s	s	i	c	C	o	l	l	e	c	t	i	o	n
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---



作品 No.12 「ナンネル・モーツァルト哀しみの旅路」

W.A. モーツァルトの姉ナンネルの物語

2010 年フランス



ストーリー 18 世紀中頃、ザルツブルク出身のレオポルド・モーツァルトは 11 歳の息子ヴォルフガングを売り出すべく、妻と 14 歳の娘ナンネルも伴い長期のヨーロッパ巡業に出る。やがてモーツァルト一家は、ルイ 15 世が君臨するヴェルサイユ宮での演奏の機会を得る。その滞在中、ナンネルはフランス王太子であるルイ・フェルディナン（16 世の父）と出会い、恋に落ちるが…

見どころ ヴェルサイユ宮殿のロケでそのまま 18 世紀が再現できるのは、やはり凄い。ナンネル役と王太子の妹ルイーズ役はルネ・フェレ監督の実の娘で、助監督は息子、と家族総出の映画作りだとか。ヴォルフガング役の少年は本当にヴァイオリニストだそうで、なかなか演奏が上手い。

感想 天才の陰に隠れた才能。“神童”と絶賛される息子を父は溺愛していた一方で、ナンネルは女性だからと差別した。弟の伴奏と歌で称賛を受けるものの、作曲を習いたいのには父は教えてくれなかった。王太子はナンネルの才能を認め、作曲を依頼したのだから嬉しかっただろう。

*DVD は TSUTAYA の店舗でレンタル可能な作品のみをご紹介します

ご報告 昨年に続き、今年も東日本大震災義援金として日本赤十字社に 10,000 円を「加納伊都後援会」名義で振り込みましたのでご報告致します。（昨年は 20,000 円） 昨年海外でチャリティーコンサートに何度も参加した伊都さんの熱意を後押ししました。ご理解のほど、よろしくお願い致します。

編集後記 今回の伊都さんの CD は、有名演奏家のヴァイオリン小品集 CD に引けを取らない演奏だと思います。伊都さんも書いていましたが、最近の CD は編集の段階で、デジタルの修正や加工を施されることが多い中で、そういったことが一切ない、ライブに近い素直な音のままの良さがあります。/ 伊都さんはまだまだ、世に名前が出ている演奏家ではないかもしれませんが、彼女にしかできない演奏、出せない素晴らしい味を持っていることを、CD を聴いて再認識しました。/ 海外でも決して楽な演奏活動ではないようですが、せめて日本では、こんな小さな後援会でも彼女の支えとなり、今後も演奏活動が続けていく手助けになれば嬉しい限りです。皆様、今年度もよろしくお願い致します！ <ゆ>

発行：加納伊都後援会 T R A U B E N

〒231-0835 横浜市中区根岸加曽台 15
TEL：045-622-6780
FAX：045-621-6423
Email：itoviolin-kouen@ac.auone-net.jp
Homepage：http://www.ito-vn.jp/